

着衣着火による火災に 注意してください!!

白河消防本部管内では平成29年1月～平成30年12月で着衣着火による火災が2件発生しています。全国的にも高齢者による着衣着火による火災が多発しているため、注意を呼びかけています。



【着衣着火ってなに？】

仏壇のろうそくの火やガスコンロの火が、衣服の袖口などに着いてすぐに燃え上がる現象です。電気ストーブなどは、炎が出ていなくても衣服が触れると火が着いてしまいます。



【なんで火災が起こるの？】

生地が表面が起毛している場合など、生地が空気を含んで燃えやすい状況になっているときに着火しやすく、特に、表面に綿・レーヨンなどの毛羽のあるものは十分に注意しないと簡単に着火します。このように、わずかな炎の着火で短時間に衣類の表面を火が走る「表面フラッシュ現象」が発生します。

【衣服に火がついたらどうしたらいいの？】

- すぐに水をかぶって火を消してください。
(水道の水、浴槽の水、花瓶の水、飲み物など近くにある水を火にかけてください。)
- 身辺に水がない場合は、走り回らないでその場に転がって、燃えているところを地面におしつけて消火してください。
(倒れることで顔の前に火が上るのを防ぐ効果もあります。)



【着衣着火を起こさないためには？】

- 火を扱うときは、袖や裾が広がっている服は着火しやすいので避けましょう。
- 燃えにくい防災製品の衣服を着用しましょう。
- ガスコンロの奥には、料理道具や調味料を置かないようにしましょう。